



福井市簡易水道事業経営戦略に掲げた事業計画や経営指標、決算状況について、令和7年度末時点における進捗状況を検証しました。

1 事業計画の進捗状況

【統合事業】

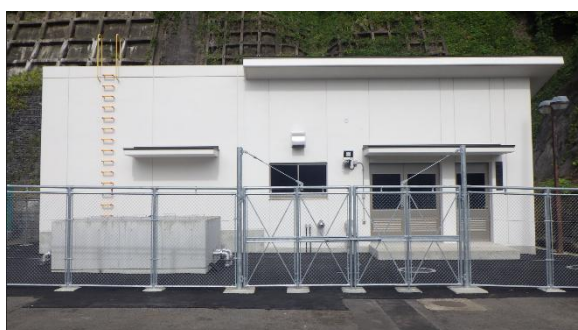
安全・安心な水道水の安定供給や維持管理の効率化を図るため、隣接した地域の水道施設を統合しています。

○事業概要

- ・整備地区：下味見地区（折立町、横越町、東河原町、西河原町）
- ・整備期間：平成29年度～令和8年度
- ・給水人口：242人（R8.3.31現在）

○令和7年度の事業実績

- ・折立浄水場の施設整備の完了、折立町・横越町で給水開始



《折立浄水場》



《配水管布設替工事》

【更新事業】

老朽化した機器の更新を行いました。

○令和7年度の事業実績

- ・越廼地区：北部大味配水流量計更新、可搬式浄水装置の設置（居倉）
- ・美山地区：市波滅菌室残留塩素計更新、梶谷浄水場膜モジュール更新

2 経営基盤強化の取組

【事業の効率化】

- ・施設の維持管理や水質管理の民間委託
- ・水質検査を浄水管理事務所に委託
- ・水道料金徴収やメーター交換等の業務費を水道事業に委任
- ・遠方監視システム設置による業務の効率化（2地区設置）

《遠方監視システム》



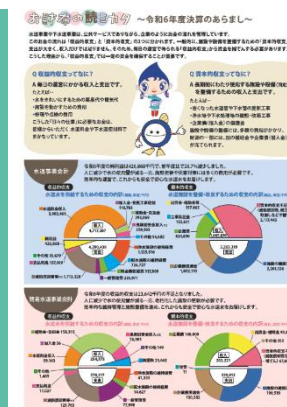
【収入の確保】

- ・水道料金収納率 99.6%
- ・金融機関への資金預入れによる利息収入

【事業のPR】

広報誌「上下水道のミカタ」発行
（年3回 全戸配布）

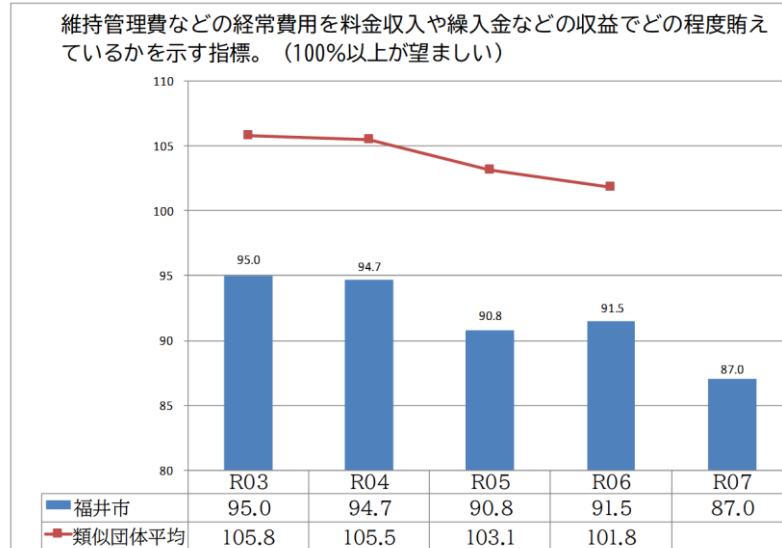
PRイベント「上下水道展」開催
（約1,000人来場）



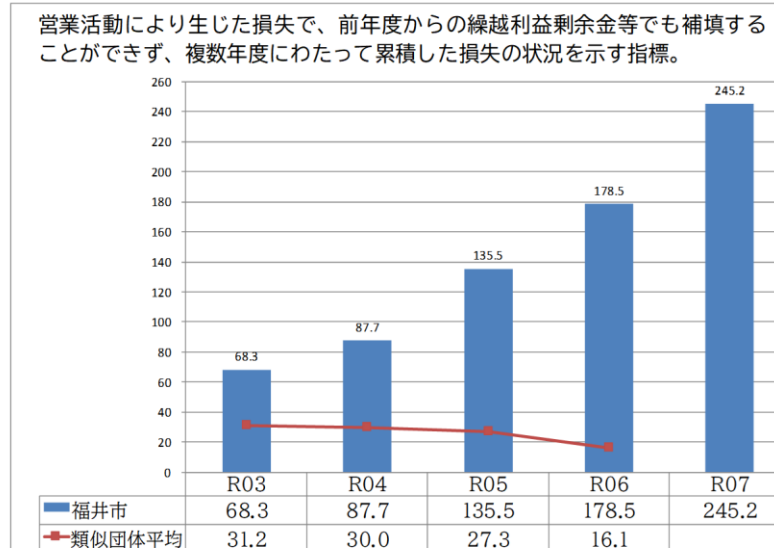
3 経営指標

【経営の健全性・効率性】

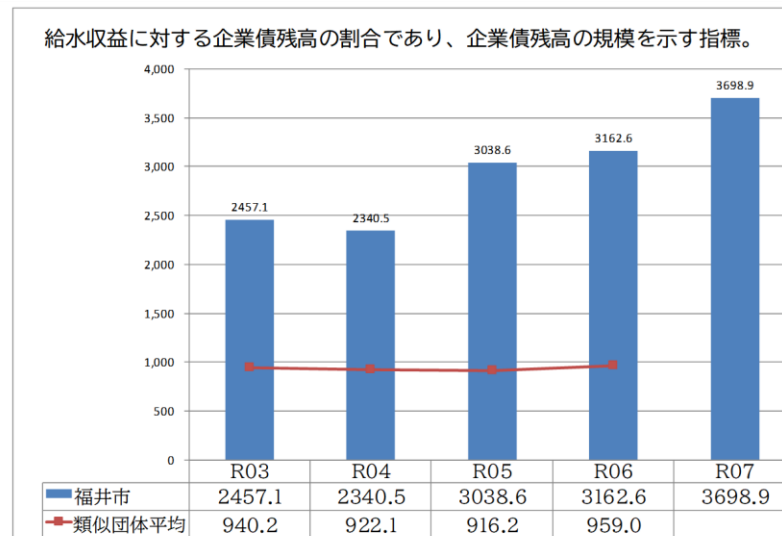
① 経常収支比率(%)



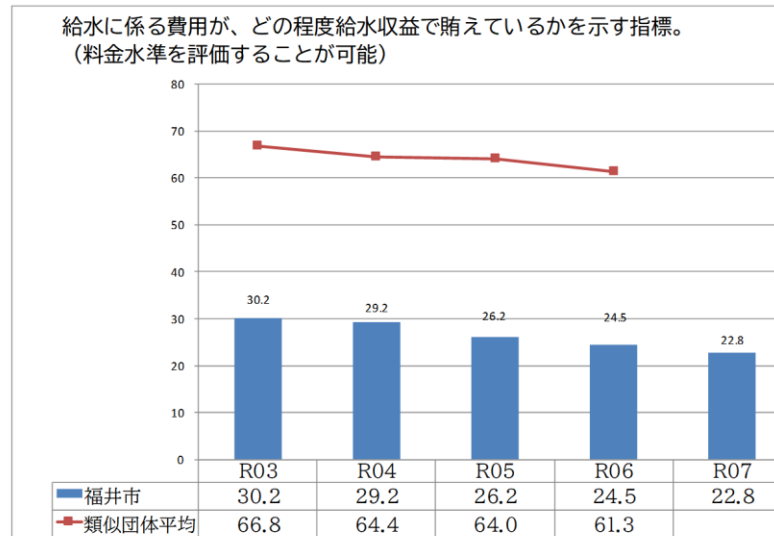
② 累積欠損金比率(%)



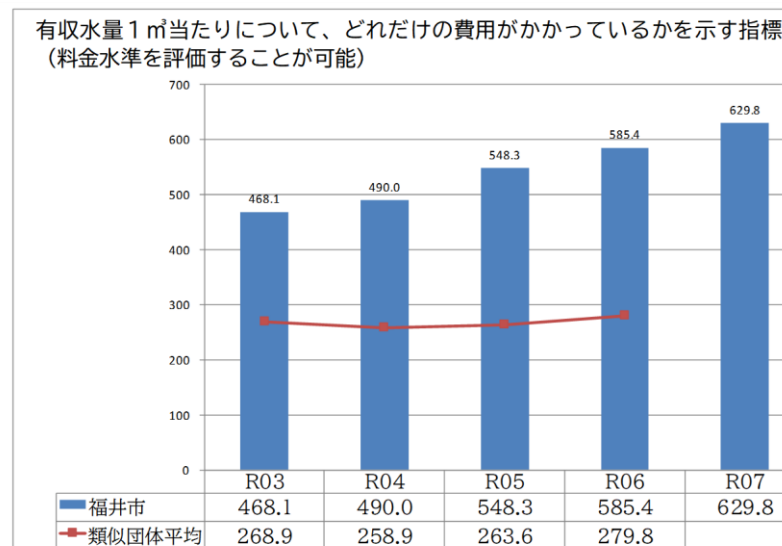
③ 企業債残高対給水収益比率(%)



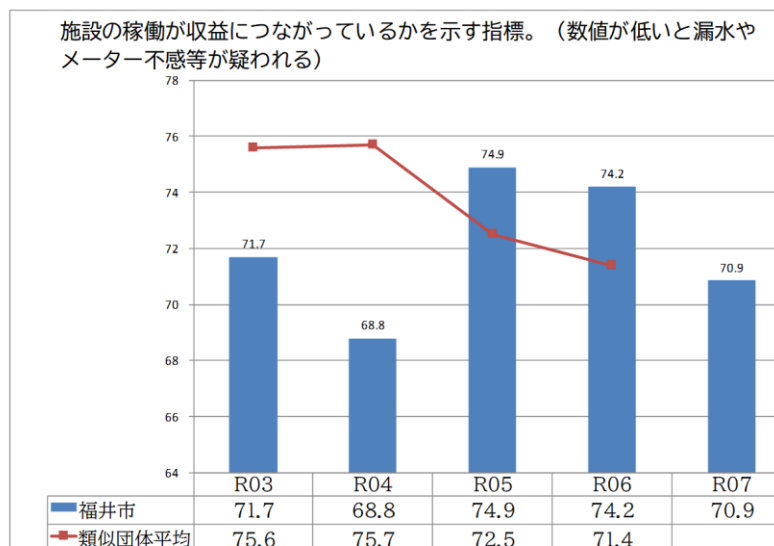
④ 料金回収率(%)



⑤ 給水原価(円)

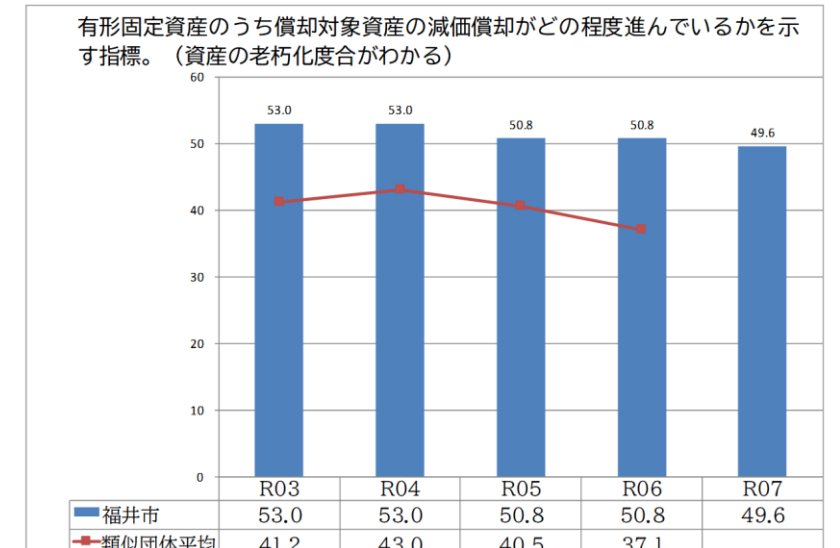


⑥ 有収率(%)

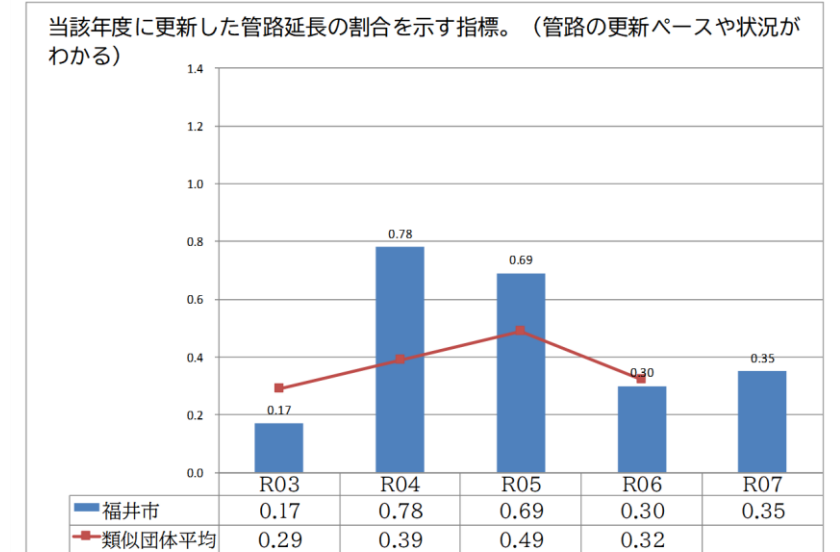


【老朽化の状況】

⑦ 有形固定資産減価償却率(%)



⑧ 管路更新率(%)



【指標の分析】

- ・「①経常収支比率」、「④料金回収率」については100%を下回っており、水道料金で給水に係る費用を賄えておらず、厳しい経営状態といえます。
- ・「⑦有形固定資産減価償却率」は類似団体平均を上回っており、老朽化が進んでいます。また、「⑧管路更新率」は類似団体平均と同程度ですが、類似団体よりも管路の老朽化が進んでいるため、今後も計画的に施設の更新を進めていく必要があります。

【決算状況】

() 内の数値は対前年度増減率

<福井市水道事業マスコット「アクア」>



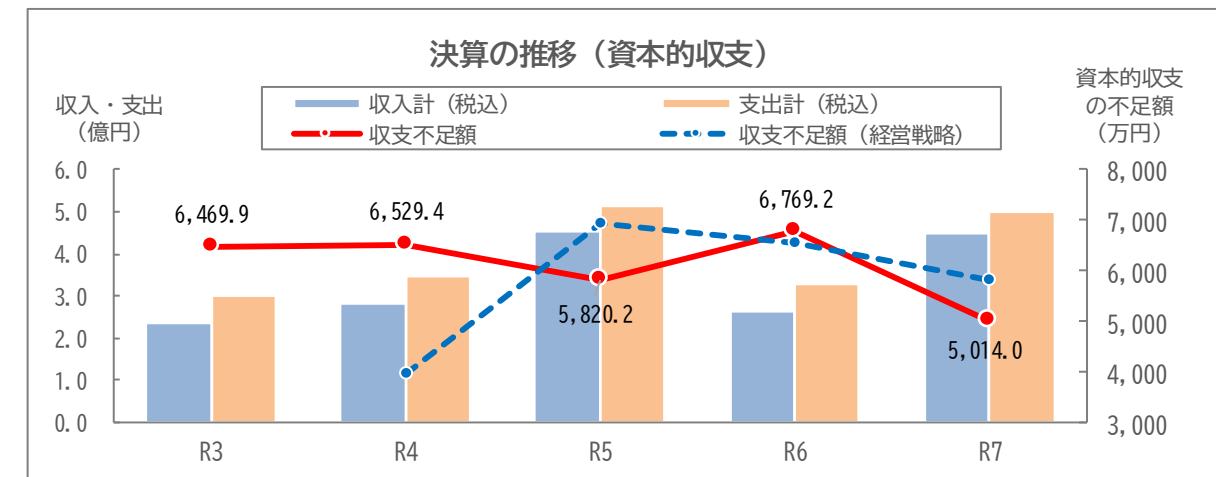
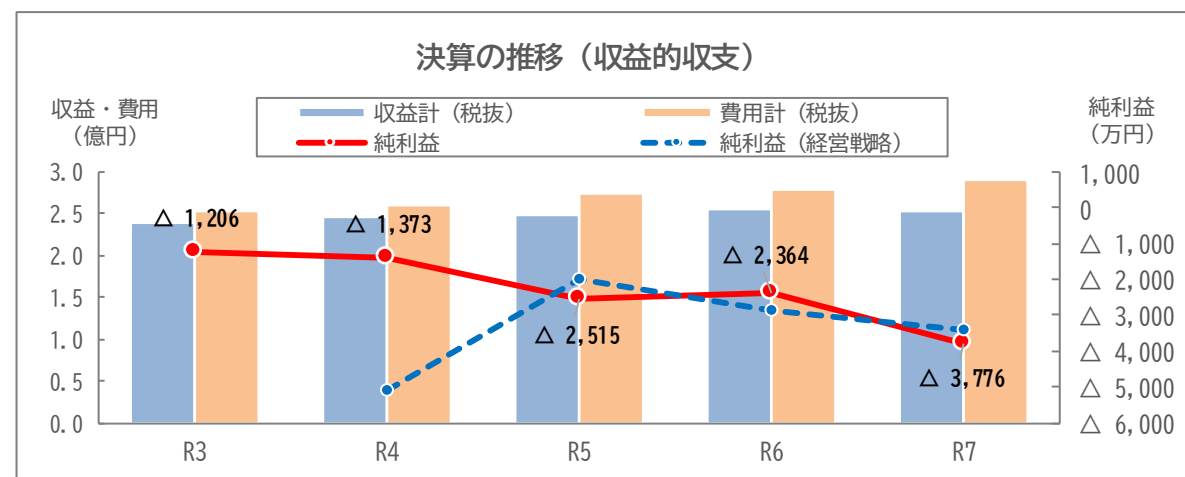
収益的収支：収益面では、過疎化の進行により給水収益が減少し、営業収益は5,835万円（△1.5%）となりました。また、営業外収益は1億9,532万円（△0.0%）、特別利益は10万円となり、これらを合わせた総収益は2億5,377万円（△0.3%）となりました。

費用面では、資産減耗費や人件費の増加等により、営業費用は2億7,146万円（+4.5%）となりました。また、営業外費用は企業債支払利息が増加し、1,997万円（+8.0%）となり、これらを合わせた総費用は2億9,143万円（+4.8%）となりました。この結果、当年度は3,766万円（59.3%）の純損失となりました。

資本的収支：収入面は、企業債の増加により、4億5,010万円（+71.6%）となりました。

支出面では、建設改良費の増加により、5億24万円（+51.6%）となりました。

この結果、資本的収支の不足額は5,014万円となり、留保資金等で補填しています。



【経営戦略との比較】

【単位：百万円】

	収益的収支			資本的収支		
	収益	費用	純利益	収入	支出	不足額
経営戦略	239.9	274.0	△34.1	326.2	384.4	△58.2
R7決算	253.8	291.4	△37.7	450.1	500.2	△50.1

- ・収益的収支については、物価や金利等の上昇に伴い、費用が増加しました。これに対応して一般会計繰入金も増額となり収益は増加したものの、費用の増加分が上回り、純損失は経営戦略の見込値よりも増加しました。
- ・資本的収支については、前年度からの繰越事業の精算に伴い、支出は増加しましたが、収入（企業債）も増加したことによって、資本的収支の不足額は経営戦略の見込値よりも減少しました。